

9月1日

# 防災の日 パート・2



多くの命を一瞬にして奪い去る大地震。

私たちの住む上士幌町でも震度6強の大地震が起こる可能性があります。そのため、先月号では、日頃、備えておくべきものについて紹介しました。

今月号では、9月1日(土)の「防災の日」に、山村開発センター集会所で行われました「第2回防災フェスティバル」の開催報告を中心にお届けしたいと思います。



▲上士幌町ボランティア夢気球(会長:菅原昌三さん)のみなさんによって、炊き出しの実演と非常食試食体験が行われました。



▲株式会社ムラカミのご協力により、防災グッズや非常食が展示されました。

※非常食は、お湯や水を注ぐレトルトのものや缶に入ったパンなどが展示され、その多くは、3年~5年の保存がきくようです。



◀また、上士幌町建設業協会の協力のもと、住宅の耐震診断、耐震補強工事の相談会や、NTT東日本一北海道 帯広支店による災害用伝言サービス体験も行われ、実際に用意された電話で災害用伝言ダイヤル「171」へダイヤルし、録音と再生を体験しました。

## まずは『知る』ことが大事…

### 「情報」がないと…誰でも災害弱者になりえます



▲岡田成幸教授

冒頭、「防災の第1歩は、自分にとって、1番まずい条件を考えておくこと」と話され、「自分にとって、家族にとって、町にとって、最悪の状況を想定して防災を考える」ことが大事とされ、講演がありました。

## 基調講演

開会のあいさつのおとは、昨年に引き続き、北海道防災会議専門員や日本建築学会委員などの役員を歴任し、地域防災の専門家でもある、岡田成幸(おくだしげゆき)北海道大学教授を迎え、「大地震に備えた建物防災」について、

# 上士幌町防災フェスティバル 第2回 を終えて…

また、「情報が届かない。情報を知らない人ほど、災害弱者になり、誰でもその可能性がある」と情報の重要性が話されました。

本町は、大きな地震が多発しないものの、十勝沖における震度4~5、**居直下地震における震度6弱~6強の大地震が来る可能性がある**ことを示唆し、特に直下地震における被害想定を行い、対策を考えることが大事と話されました。

## ◆自助・共助・公助

災害対策では、その時間軸において、誰が誰を助けるかという認識が必要となります。

地震発生直後は、自分で「自分」を守る。地震終息直後は、「家族」を守る。『自助』の時期となります。

その後、3日間の復旧期は、『共助』の時期であり、コミュニティーでの助け合いが必要となる時期です。

その後の復興期は行政による生活再建支援の『公助』の時期にあたります。

まず、自分自身を守る3秒間。次に家族を守る3時間。地域住民が生き残る3日間。これらの時間をどう過ごす

か。また、あらかじめ対策しておくか  
がとても重要となると話されました。

## ◆事前にできること

今できることは、自分の家の耐震診  
断を行い、震度6強で自分の家がどう  
なるかをチェックする必要があり、診  
断についても助成制度などがあるの  
で、耐震性が不十分なら町などに相談  
するほうがよいとされました。

また、大きな震災では、宅内での安  
全性についても考えておく必要があ  
り、家具の数や配置、固定などで対策  
を練ることも大事で、それらは地域ぐ  
るみで実践するほうがよいとされまし  
た。

## ◆揺れている最中

普段から、家具の配置で、どこに安  
全空間があるのかを知ること、それら  
を日頃から家族で話し合い、情報共有  
することが大事。揺れ始めたらその安  
全空間でじっと待機し、家族など互い  
に声かけをし安全を確認し合う必要が  
あるとされました。

## ◆備蓄品はどの程度用意すべきか

復旧期に入る、災害発生から3日間  
までの生活をサポートするものを用意  
すべきで、自分・家族にとって、快適  
に過ごせるもの。普段利用できるもの  
を無理をしないで用意することが大事  
と話されました。

## 地震を想定したイメージ訓練

講演後は、5つのグループに分かれ  
て、地震をイメージした訓練「DRIG」  
を行いました。

まず、自分の家をイメージして、耐  
震診断表に点数を記載したあと、模造  
紙と付箋紙を使って、「9月1日午後  
10時 十勝平野断層帯で震度6強の地  
震が発生した」と想定して、①揺れ始  
めたときの行動、②揺れがおさまった  
ときの行動、③避難所に持っていく物  
④地震への備え、について、グルー  
プ内で討議しました。

### 【主な討議内容】

- ①逃げ道の確保。ドアや窓を開ける。  
とにかく安全な場所へ移動。
- ②2次災害を防止するため、プレー  
カーなどをおとす。TVやラジオなど  
で情報確認。
- ③非常食や防災グッズ、お金、防寒着  
毛布、電話。
- ④防災グッズ、家族での避難ルート、  
避難先の確認、お風呂の水をはる(生  
活用)。



▲グループ内で助け合いながら、地震  
時における行動を考えました。

## 岡田成幸教授に補足インタビューしてみました

Q 講演の補足として、特に普段から対策しておくことはどのようなことでしょうか。

A 日頃から、家がつぶれないような工夫、つまり耐震化を考えておくべきです。また、災害発生時にどのように家具が倒れてくるのかも想定し、補強することが大事です。突っ張り棒で家具を固定した場合、地震の揺れ方によっては、突っ張り棒と天井との間に隙間ができ、倒れるというケースがあります。しっかりとした対策が必要となります。

Q 地震発生後はすぐに外に出た方がよいのでしょうか。

A 災害の状況により対応する必要があります。耐震化がしっかりされた建物の場合は、宅内の安全空間にいた方がよいという場合もあります。過去の災害では、タンスや冷蔵庫などが壁にもれかかり、その間に空間ができたために助かった例もあります。

逆に、外にでた場合がよい場合もあります。その際でも地震がおさまり、宅内の安全が確認できる場合は、一旦、家に入り、情報取得を行った方がよいです。

また、災害発生時にあくまで余裕があれば、脱出口の確保、トビラや窓を開けることも有効です。ただ、窓ガラスが割れるというケースもあるので注意が必要です。

Q 地震発生後ですが、火災が発生するケースがあると思うのですが。

A 発生後、避難所へ移動することがあると思います。その際は、自宅の火の元や電気を確認してください。特に避難所へ移動する場合は、電気のブレーカーを落としてください。電気が復旧され通電されるときに火災が発生するケースがあります。

Q 自主防災組織などで共助する場合の注意点を教えてください。

A 集団という中では個人の勝手な行動はしてはいけません。また、災害時にヒーローは要らないです。また、組織を自己責任で離れる場合は、必ず、メモなどをおいて痕跡を残すことも大事です。



最後に岡田教授より、総括がされま  
した。「災害はいろんな状況が想定さ  
れます。揺れはじまったときの自分の  
身の確保。おさまったときのTV、ラ  
ジオによる情報の入手が大事です。そ

の後、隣近所の方にも声をかけて、安  
全を確認してください。また、日頃よ  
り、家族で今回のシミュレーションの  
内容を話し合い、行動してください。」